

インドの政策金利引き下げについて

ポイント① 政策金利を6.00%に引き下げ

8月2日、インド準備銀行（中央銀行、RBI）は金融政策決定会合において、政策金利であるレポレート（中央銀行が市中銀行に資金供給を行なう際の金利）を年率6.00%に、リバースレポレート（中央銀行が市中銀行から資金回収を行なう際の金利）を年率5.75%に、それぞれ0.25%引き下げることと決定しました。2010年以來となる低水準への利下げとなりましたが、この決定は、多くの市場参加者の予想に沿うものでした。

ポイント② インフレの上振れリスク低下による利下げ

中央銀行は声明で、「インフレの上振れリスクは一部低下、または顕在化しなかった。需給ギャップの動向により金融緩和余地が生じた」と述べました。一方で、今年2月の会合で緩和から中立へ変更した金融政策スタンスについては、今回も中立を維持する姿勢を示しました。

インフレ率は、2016年11月以降一貫して中期的なインフレターゲットである4%を下回っており、6月は1.5%と、レンジ下限である2%を下回る水準まで低下しました。今回の声明では「インフレ率が歴史的最低水準まで低下した一方、一時的要因と構造的要因の見極めが困難である」と述べました。同中銀は、インフレについて現在の最低水準から上昇するとみており、予測に含まれていないいくつかの上昇圧力に言及した上で、引き続きインフレ率をベースラインとして4%近くに抑えることへのコミットを重視する姿勢を示しました。

一方、2017年1-3月期のGDP（国内総生産）成長率は前年同期比で+6.1%と、2016年10-12月期の同+7.0%から大きく減速しました。昨年秋の高額紙幣廃止政策や、GST（物品・サービス税）導入前の在庫調整の影響が表れたものと思われます。同中銀は、2017年度のGVA（粗付加価値）成長率予測を前年比+7.3%に据え置きました。

ポイント③ インドルピーは小幅上昇

今回の決定を受けて、8月2日のニューヨーク外国為替市場では、対米ドルで前日比0.6%程度、対円で同0.9%程度のインドルピー高となりました。

重要
イベント

8月11日	鉱工業生産指数（6月）
8月14日	消費者物価指数（7月）
8月31日	GDP（国内総生産、4-6月期）

図1：政策金利の推移

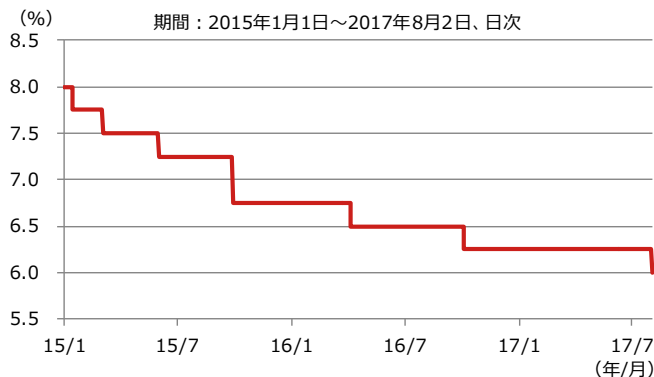


図2：物価指数（前年同月比）の推移

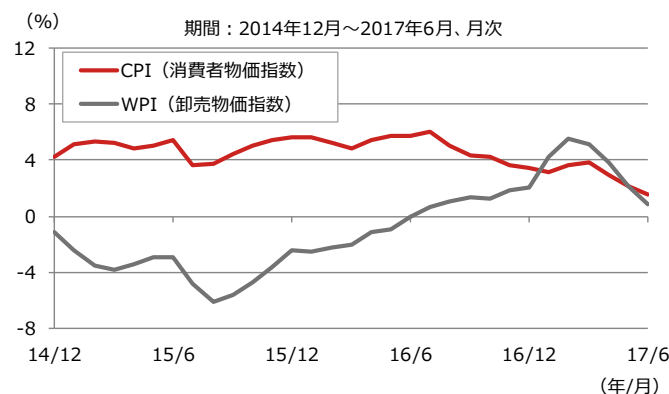


図3：為替レートの推移



(出所) ブルームバーグデータより野村アセットマネジメント作成

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。